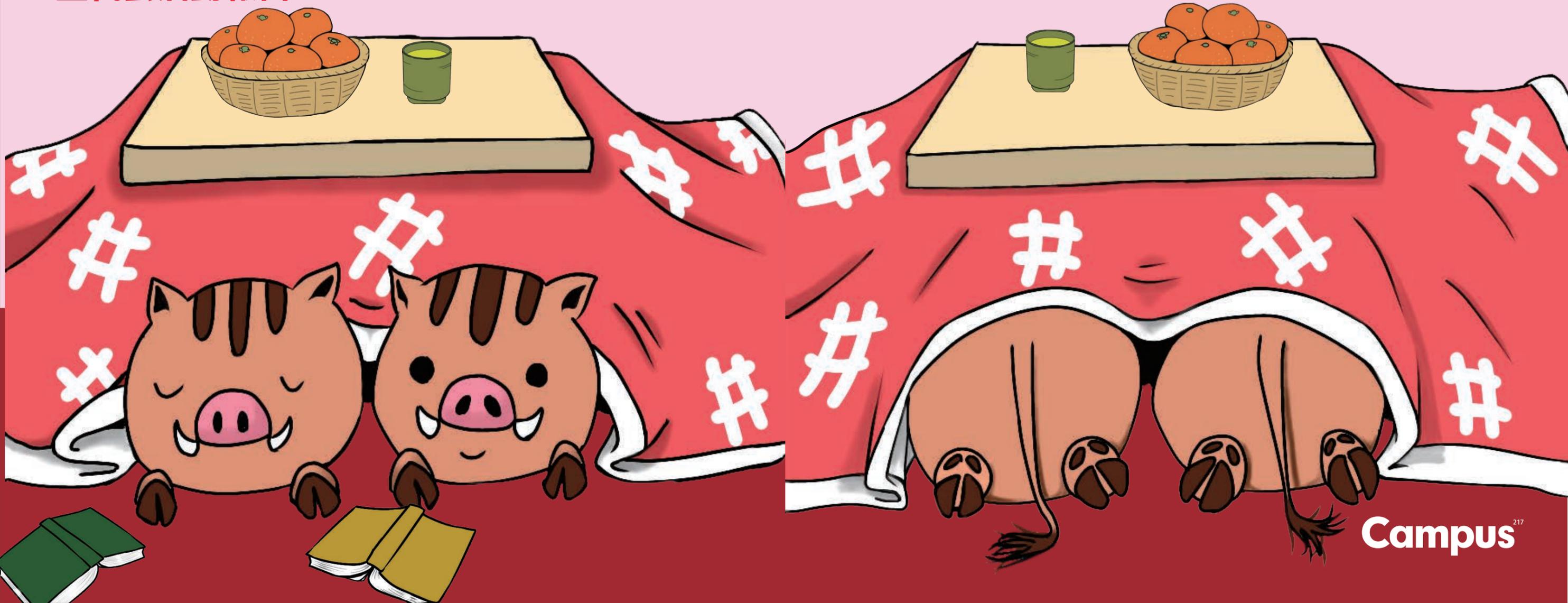
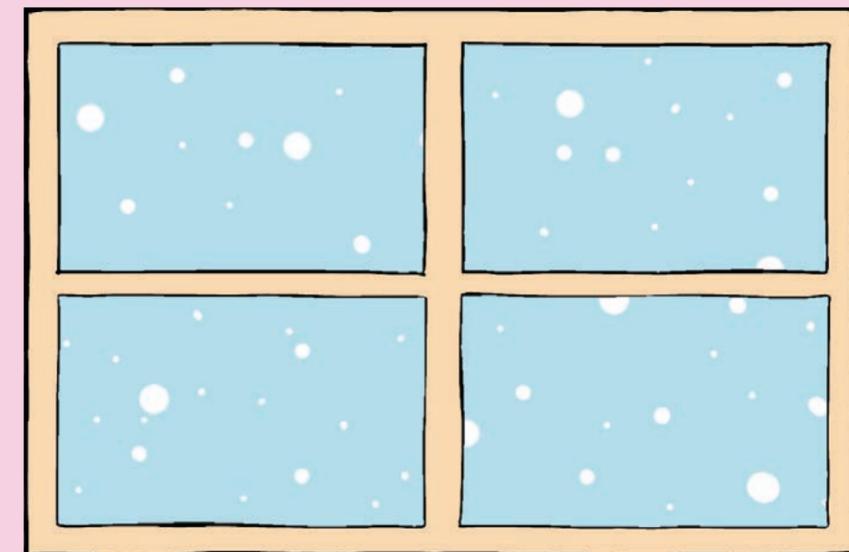


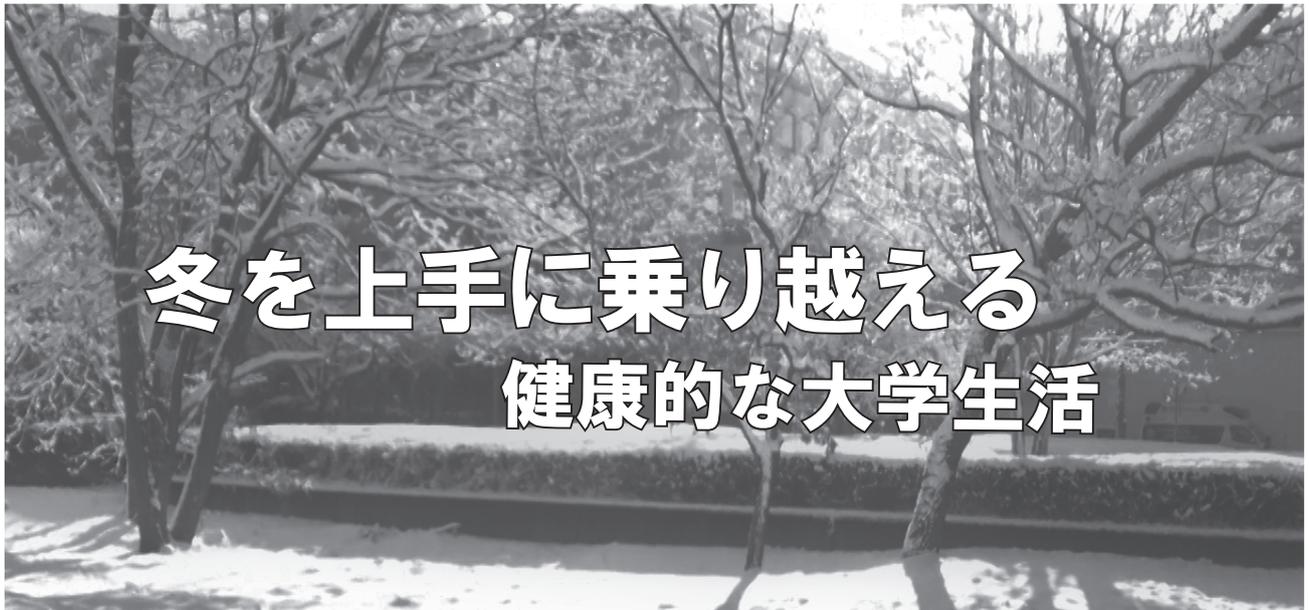
冬を上手に乗り越える
健康的な大学生活

災害大国の羅針盤
いざというときにできること

知識の海に潜る
【連載特集】各学類・専門学群を知ろう！

全大会活動報告





冬を上手に乗り越える 健康的な大学生活

「大学生になってから生活習慣が乱れた」「体力が落ちたのを感じる」といった話を筑波大生がしているのをよく耳にする。冬に生じやすい健康面での問題を乗り切るための工夫や知恵を様々な分野の先生に伺った。これをきっかけに筑波大生がより健康的に冬を越せるようになれば幸いである。

(編集人：瀬邊風馬、十川澄、宮内順也)

冬 の 特 性

気象庁の定義に従えば「冬」は12月から2月までの期間である。また、日本で古くから用いられている季節の分類手法である二十四節気に従えば、「冬」は立冬から立春までの間の期間である。日本列島ではこの時期に典型的な西高東低の気圧配置となるため、ユーラシア大陸から冷たく乾燥した空気が流れ込む。そのため日本海側では大雪になり、太平洋側では空気が乾燥し冷え込む。

気候の性質上、冬になると病気にかなりやすくなる。厚生労働省結核感染症課の報告したデータによると、例年11月頃からインフルエンザやノロウイルスなどの感染症が学校や職場で流行しはじめ、どちらも1月頃に流行のピークを迎える。感染症以外にも、気温の急激な変化によって体調を崩すことが多い。

本特集では、筑波大学生が冬を健康的に乗り切る方策となり得る知恵や工夫について、複数の視点に基づいて考えた。今回の特集では、栄養学に基づいた食事の面での工夫と家庭医学に基づいた感染症予防の面に着目して取り上げる。

平成31年1月1日～ 保健管理センターの診療が 有料になります。

Charging of medical services in the University Health Center will begin on January 2019.

保健管理センターでは、これまで診療や投薬を無料で行ってまいりましたが、診療水準の維持を図るため、診療を有料化することになりました。ご理解のほど、よろしくお願いたします。



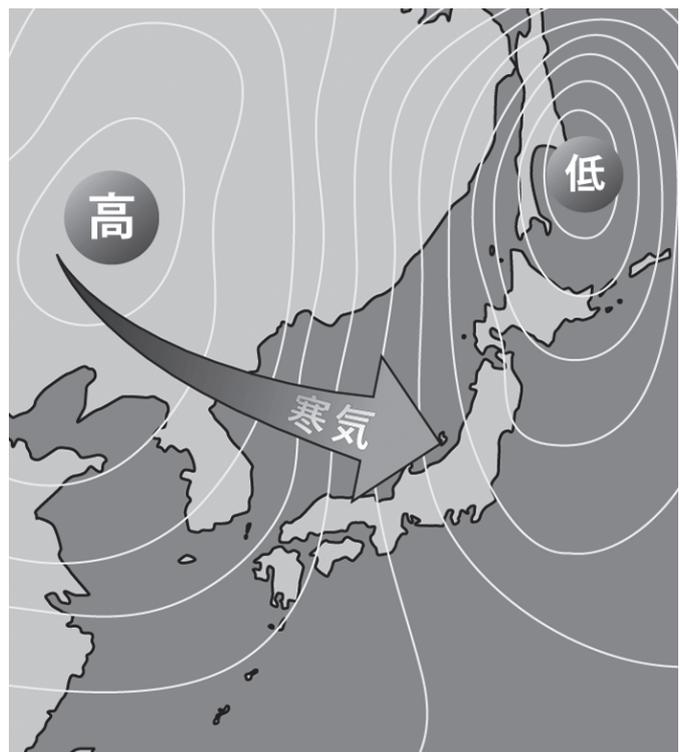
- ・診療料金は、一般の医療機関の半額程度(500円～、精神科は1,000円～)です。
- ・有料化後も診療は初診のみになります(精神科を除く)。
- ・学生だけでなく教職員の方も受診できます(教職員の精神科受診は初診のみ)。
- ・軽いケガの看護処置、学生健康診断再検査、カウンセラーによる学生相談は、これまでと同様に無料です。

- 【診療料金の例】
- ・かぜ(急性上気道炎) 800円(診察費+薬剤費)
 - ・ねんざ 1,300円(診察費+薬剤費+検査費)
 - ・初期の虫歯 1,500円(診察費+検査費+処置費)
 - ・精神科診療 2,000円(診察費+薬剤費)

- ・具体的な診療料金は、右記のQRコードより、保健管理センターwebページをご確認ください。
- ・受診には、学生証または職員証が必要になります。
- ・試行期間として、平成30年11月1日以降は、持参をお願いいたします。

お問い合わせ：筑波大学保健管理センター 029-853-2410
http://www.hokekan.tsukuba.ac.jp/

保健管理センターのポスター



冬に観測される典型的な西高東低の気圧配置

健康は食事から

大学生の中には、忙しさを理由に朝食を取らない人や食事に偏りがある人がいる。「健康的に冬を乗り越えるためには、主食・主菜・副菜を朝昼晩かさず取り、栄養を十分に偏りなく取ることが重要である」と麻見直美准教授（体育系）は語る。

近年、糖質制限ダイエットなど理由に主食を食べない人も増えていく。「1日の活動エネルギー源として主食は最優先で取るべきである。そのうえで低コストでエネルギーが確保できる米は学生の強い味方だ」と麻見准教授は話す。また、米に含まれる植物性タンパク質は、卵や肉などの良質なタンパク質と一緒に取ることでも効率よく吸収することができる。

タンパク源である主菜には、手軽なものとして納豆や豆腐、卵などが挙げられる。納豆と豆腐はいずれも大豆由来の食品であり、肉や卵と同等のタンパク質としての栄養価を持つ。また卵を使う場合は、1回分の主菜の量は手に乗る程度が良い。いずれも学生が、肉や魚より手軽かつ低コストで食べられる食品である。

野菜摂取を目的とした副菜とし

て、レトルトの味噌汁や果物を含まない野菜ジュースに冷凍野菜を入れたものがある。市販のスープに安価な冷凍野菜を入れて作ることができ、副菜は、食事を準備するための負担や費用を抑えられる。野菜ジュースから得られる栄養は、野菜を1日摂取量の目安350g食べたときと比較すると、3分の1から半分程度である。野菜ジュースは食事だけでは足りない栄養を補うように取ると良いという。

その上で食材の色を意識し、色の濃い野菜を取りそろえることでより栄養バランスの良い食事が取れる。「赤や緑が入っていると食事の見た目もおいしそうにできあがる」と麻見准教授は話す。

良質な睡眠

「良質な睡眠の確保は疲労回復に必要だ」と麻見准教授は語る。就寝前2時間以内に夜食を取ると、消化吸収が睡眠の妨げとなり、翌日の朝に空腹感を得られない。また、その後の生活が乱れる原因ともなり得る。良質な睡眠を確保するためには食事の時間を意識し、就寝2時間前までに食事を終わらせることが重要である。

就寝前に空腹で入眠できない場合は、ホットミルクを飲むことが効果的だ。「空腹感を解消し、一時的に体温を上げることで入眠しやすくなる。牛乳以外にも紅茶やチャイなどを利用して体温を上げて良い」



食事について語る麻見准教授

冬の病気と対策

冬に流行する代表的な感染症として、インフルエンザとノロウイルスによる感染性胃腸炎が挙げられる。

インフルエンザは高熱や頭痛、関節痛などの全身症状が急に現れるのが特徴である。一般に流行するのは、A型とB型インフルエンザウイルスであり、同じ季節にA型とB型の両方にかかることもある。また、同じ季節にA型ウイルスに2度かかることもある。なぜなら、A型に100種類以上の亜型があるためだ。

インフルエンザは飛沫感染や接触感染が主な感染経路で、一般的には空気感染はしない。予防として、ワクチンを接種することや、マスクの着用や手洗いで感染経路を断つこと、室内で適度な湿度を保つことが挙げられる。

「インフルエンザを発症した場合、近隣の医療機関を受診し、抗インフルエンザ薬を服用することで感染拡大防止に努めてほしい」と、坂本透准教授（保健管理センター・医学医療系）は話す。

ノロウイルスの感染対策は手洗いを徹底すること、貝類を確実に加熱することだ。ノロウイルスは嘔吐や

下痢、腹痛などを引き起こす。ノロウイルスはウイルスが蓄積されたカキなどの貝類を十分に加熱せず食べたり、ウイルス感染者が調理した食品を摂取したりすることで感染する。

筑波大学では、体調が悪くなった際に保健管理センターを受診するという手段がある。保健管理センターは2019年1月より診療が有償化される。薬剤費を合わせると、精神科は2000円、精神科以外の診療科は800円の診察費がかかる。この料金は一般の医療機関の半額程度に設定されている。（2頁左下ポスター参照）

「学生支援体制を強化するため学生相談の新組織化も同時に行う。看護処置やカウンセラーによる学生相談はこれまで通り無料であるため、気軽に利用してほしい」と坂本准教授は語る。



災害大国の羅針盤

いざというときにできること

災害大国日本において、地震、台風、豪雨といった災害を意識せずに暮らすことは不可能であろう。本特集では防災、復興支援の2つの視点から災害について考えていく。(編集人：軽辺凌太、北村夏海)

災害に備えよう

日本は世界的に見て災害大国と言われるほど多く災害が発生している国である。しかし、災害大国であるにも関わらず、自分の住んでいる地域において災害が起こる可能性を意識している人は少ない。そのため、いざというときに起こるかわからない災害に対してどのような備えをするべきかについても、深く知られていない。「日常生活における当たり前のことができなくなったときにどうするかを、他人事ではなく普段から考えることが重要である」と梅本通孝教授(システム情報系)は語る。

災害に備えるためにできることは多くある。流通が滞ったときのために食料を備蓄しておくこと、電気などのライフラインの供給が停止したときのためにラジオを用意しておくことなど、様々な備えを講ずることができる。注意すべき点は災害時、各個人で日常生活に近い生活を送るために必要な最低限の備えが異なるということだ。一人一人の生活様式は異なるため、おのおのにとって必要だと感じる物は異なる。例えばペットを飼っている世帯では、ペットフードを余分に用意するという備えが考えられる。

「自分にとって今何が大切なのか考えることが、自分以外の大切な何かを守ることにつながる」と梅本准教授は話す。自分自身に限らず、近親や友人など大切な人を守りたいという意識を持つことが大切だ。結果として普段の日常会話で、防災に関する話題を提起したり、災害時どのような備えをすべきか話し合ったりすることができる。「普段防災について考える機会はありません」と思われる。しかし、9月1日の『防災の日』など災害にまつわるイベントがあったときに防災について考えることが、防災について関心を持つ第一歩となるだろう」と梅本准教授は語る。



災害への備えを語る梅本准教授

平成30年に起きた主な災害



復興支援の現在と未来

「大学生にできる復興支援は、現在主に二つある」と大澤義明教授（システム情報系）は語る。被災地へ赴いてのボランティア活動とアカデミアとしての復興研究だ。被災地へ直接物資を送るといった方法もあるが、避難所などでの物資の仕分けには手間がかかる。その上、混乱した現場では食糧などの直ちに必要なものが必要な分だけ届かず、古着や千羽鶴などの直ちに必要ではないものが届くことによるストレスが生じることもある。

「現地でボランティア活動をすることには未だ問題点がある」と大澤教授は話す。具体的には、限られた駐車スペースから自動車があふれることや、現地の情報が上手く共有されず、ボランティアが一カ所に集中し、人員が適切に分散できないことが挙げられる。

これらの問題を踏まえ、大澤教授は今後の復興支援としてITを活かしたアプリの作成と普及に向けた構想を練っている。例えば被災地までのボランティア相乗りシステムや自動車のGPSを利用した通行可能道路の情報を集めるシステム、現地のリアルタイムの情報を収集し、ボラ

ンティアを適切に割り付けるマッチングシステムなどが挙げられる。「さらに自動運転車が普及すれば、避難の際にやむを得ず道路に乗り捨てられた自動車を、人間が運転せずとも遠隔操作で回収するシステムもできるかもしれない」と大澤教授は語る。

また、電気自動車普及すれば、電力供給が途絶えた際に電気自動車のバッテリーが電力源としての役割を果たせる可能性がある。

さらに、被災の経験を活かして国民一人一人が自分の防災対策を見直すことや、災害大国である日本の被災経験を世界に広めていくことによる国際貢献にも大きな意義がある。



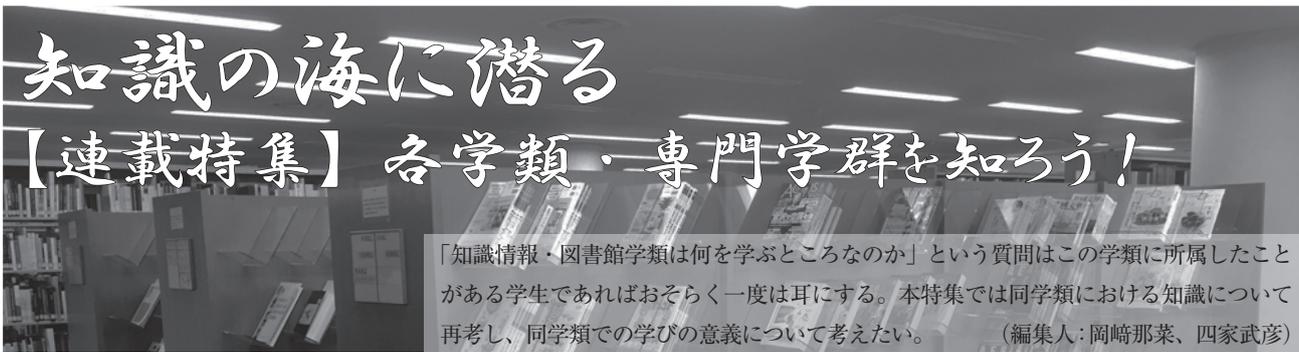
復興支援について語る大澤教授

「防災士」とは

認定特定非営利活動法人日本防災士機構が認証している資格に「防災士」がある。防災士の三原則は、自分の命は自分で守るという「自助」、地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ「共助」、市民や企業、自治体などが協力して活動する「協働」だ。この三原則をもとに、防災に関する知識や技能を身に付けたことを証明する資格が防災士である。

近年は災害の多発を受け、自治体などで防災士の配置・活用の動きが活発化したことに伴い、防災士認証登録者数も増加している。防災士認証には防災士養成研修講座と、消防署や日本赤十字社などが実施する救命救急講習を修了した上で、試験を受験し合格する必要がある。防災士養成研修講座は多くの自治体で補助金を出しているため、受講料の自己負担額は少ない傾向がある。

本資格は国家資格ではないため、特定の権限が与えられるわけではない。得た知識と技能をもとに災害時に率先してリーダーシップを発揮することが期待されている。防災に興味を持つ第一歩として防災士資格取得に挑戦してみてもどうだろうか。



知識の海に潜る

【連載特集】各学類・専門学群を知ろう!

「知識情報・図書館学類は何を学ぶところなのか」という質問はこの学類に所属したことがある学生であればおそらく一度は耳にする。本特集では同学類における知識について再考し、同学類での学びの意義について考えたい。(編集人:岡崎那菜、四家武彦)

知識情報・図書館学類に迫る

知識情報・図書館学類は記録された知識や情報の有効活用について学ぶ図書館情報学、記録に留まらず人が知っている状態の知識や情報の活用方法について学ぶ知識情報学を学びの中心に置いた学類だ。情報は関連する要素が多岐に渡り、複数の学問領域をまたぐ概念である。図書の排架法やプログラミングに留まらず、文化や制度など知識や情報を取り巻く全てがこの学類における学びの対象だ。

学類生は3年次から知識科学主専攻、知識情報システム主専攻、情報資源経営主専攻のいずれかを専攻するが、主専攻間の明確な線引きは難しい。「経験や興味関心を背景に、学生一人一人が知識や情報に関する新たな世界観を創造してほしい」と



左から歳森教授、池内准教授

宇陀^{うだ}則彦^{のりひこ}准教授(図書館情報メディア系)は話す。この宇陀准教授の考えは「図書館情報学や知識情報学の正解は一つではない。自身の世界観を確立していくことが学びを深める上で大切だ」という歳森^{としりあ}敦^{あつし}教授(図書館情報メディア系)の言葉とも重なる。

知識情報・図書館学類の前身である図書館情報大学は司書を養成するために設立され、司書養成は現在も学類として力を注ぐ分野だ。一方で学類では情報を広く捉え、多方面から働きかけが可能な学びを展開する。「今後さらに求められる、情報を適切に収集・整理・提供できる人材を社会に輩出したい」と池内^{いけうち}淳^{あつし}准教授(図書館情報メディア系)は語る。



知識情報・図書館学類を語る宇陀准教授

知識を原理的に理解する

哲学の研究として、一つの問題を様々な思想を手がかりに考えるというものがある。例えば脳と心は同じであるのか、という問題がある。「近年は脳科学の研究が発展したことにより、ある感情を抱いた際にどのような脳状態が発生するのか解明されつつある。しかし、脳状態という物理的な状態と人間の心は同一であるのだろうか」と横山^{よこやま}幹子^{みき}准教授(図書館情報メディア系)は語る。横山准教授の研究領域は心の中にあるものではなく、言語など外に表れるものを用いて哲学に関する問題を考える分析哲学である。

横山准教授の研究室に所属する大学院生の一人はフィクションに関する研究を行っている。一般に知識は科学的知識を意味することが多い

が、知識の集積地である図書館の中にはフィクションを含む資料も少なくない。「フィクションからどのようにして知識を得られるかという問題に対し、哲学者の思想をもとに議論しようとしている」と横山准教授は話す。

図書館情報学と哲学は深い関わりがあるという考え方もできる。かつて知識情報・図書館学類を担当していた石井^{いし}啓^{ひろ}豊^{とよ}名誉教授は、自身の著作で「図書館情報学が知識あるいは知識共有の目的を持った知識に関する総合科学であるとすれば、知識と知識共有の原理的理解を目指す領域が含まれても良いだろう」との見解を述べている。「哲学は図書館情報学におけるこの領域に関係するのではないか」横山准教授は語る。



哲学と知識について話す横山准教授



データから知識という価値へ

手塚太郎教授（図書館情報メ
ディア系）の研究テーマは機械学習
を用いたデータ解析手法の開発であ
る。具体的には生物の神経細胞の活
動を解析するプログラムに取り組ん
でいる。生物学者はマウスなどの脳

に記録装置を取り付け神経細胞の活
動を記録できるが、得られるデータ
は膨大であり全て人間の手で解析す
ることは難しい。しかし人工知能な
ど知的なプログラムに処理を行わせ
れば、知覚や運動、睡眠など、様々
な情報処理が脳の中でどのように表
現されているのかを知ることができ
る。

「機械学習の一つの目標はデータ
から知識を得ることだ」と手塚准教
授は話す。データは単に事実として
存在するものであるのに対し、知識
は人間が使うことができるという価
値を持つ。「データから知識を得る
作業は図書館の大量の資料の中から
利用者にとって有益な情報を探し出
すレファレンスに似ている。その意
味で機械学習はこれまで司書が行っ
てきた仕事を計算機が行えるように
発展させたものと言える」と手塚准
教授は語る。



機械学習と知識について話す手塚准教授

知識活動を支える仕事

「私の研究領域は図書館情報学の
周辺領域である」と白井哲哉教授（図
書館情報メディア系）は語る。白井
教授が掲げる研究テーマは日本アー
カイブズ学だ。図書は編集される

ことで誰かの解釈が入るものとなる
が、アーカイブズ学で扱う対象は古
文書や公文書など人類の活動の痕跡
そのものである。アーカイブズ学で
は特に紙媒体の資料など文字で書か
れているものを扱う。

「アーカイブズ学の面白さは編集
されていない生のテキストを扱うこ
と、他の研究者が資料の持つ知識の
面白さにアクセスできるよう整える
ことである」と白井教授は話す。アー
カイブズ学の重要な役割はテキスト
を作り上げた人類の思想や信条に、
社会科学者や人文学者が触れること

ができるよう管理し、保存していく
ことだ。「この役割を担うことによっ
て誰も知らない知識に最初に触れら
れることが嬉しい」

図書館の本質は人々の知識活動を
支えるものであると考えることがで
きる。図書にとどまらない多様な形
態の知識を保存する方法を考える際
に、アーカイブズ学が必要となる。

「図書館情報学から発展した知識情
報学では、デジタル社会において多
様な知識の共有化を果たすという考
え方を持つ。そこで、アーカイブズ
学を知識情報学の観点から見直し、
新たな枠組みの中で位置付け直し
みたい」と白井教授は語る。



アーカイブズ学の魅力を語る白井教授

全代会 活動報告

9月

27日

つくば市長と

筑波大学学生との

懇談会

10月

3日

第三回意見聴取会

つくば市長と筑波大学学生との懇談会



学生に笑顔で話すつくば市長

日時…9月27日（木）
 場所…大学会館レストランプラザ
 出席…つくば市長、つくば市の職員、
 全代会の構成員、他

○実施内容

9月27日（木）、大学会館1階大学会館レストランプラザ（筑波デミ）にて「第6回つくば市長と筑波大学学生との懇談会」が開催された。この懇談会はつくば市長およびつくば市役所職員と筑波大学学生との意見交換や交流を目的として、年に一度開催されているものであり、2部構成にて行われた。

第1部では、現職の五十嵐立青^{いづみあき}市長による講話と、筑波大学を卒業されたつくば市の職員の方々からのコメントをいただいた。市長による講話では、市長の略歴や体験の紹介があり、市政の考え方を話していた。

第2部では、第1部での講話の内容や筑波大学生からの質問や意見をうけ、市長と筑波大学生との意見交換を行った。意見交換の場では、筑波大学周辺の安全に関する施策やつくば市のまちづくりなど、現在既にあるつくば市内の問題に関する話題のほか、世界的なキャッシュレス化の流れへの対応やつくば駅前の再整備などの市政の今後の方針に関する話題、20年後、30年後のつくば市について市長がどのように考えているか、といった話題が上がった。第2部の最後には25分間の交流タイムが設けられ、市長や市役所職員と筑波大学生が交流する場となった。

10日
第八回本会議

17日

第七回本会議

24日

第四回意見聴取会

11月

7日

第八回本会議

14日

第九回本会議

第三回意見聴取会

日時…10月3日(水) 18時30分
場所…5C216
出席…27人

議題
『学園祭実行計画書追加提出分に
関する要請』

○議題について

「学園祭実行計画書追加提出分に関する要請」に関して学園祭実行委員会(学実委)と、資料訂正や不明点の確認等の意見交換を行った。

この学園祭実行計画書追加提出分は、具体的には運営要領、二次予算案、企画リスト等を指す。その他、学園祭におけるWebサイト、SNS許可状況や、ポスター依頼リスト、共用ごみ箱設置場所などについても検討を行った。



第三回意見聴取会の様子

第六回本会議

日時…10月10日(水) 18時30分
場所…5C506
出席…38人

議題
『平成30年度
学園祭実行計画書に関する要請』

○議題について

第三回意見聴取会での審議を受け、「学園祭実行計画書追加提出分に関する要請」に関して学園祭実行委員会(学実委)と、議題の採決に向けた最終的な審議を行った。

これまでの会議で通っていない今年度の学園祭に関する資料について、訂正や不明点の確認等の意見交換を行った。なお、議決を取る時点での出席人数が定足に満たなかったため、この会議は流会となった。



第六回本会議の様子

第七回本会議

日時…10月17日(水) 18時30分
場所…3A204
出席…43人

議題①
『新入生歓迎特別委員会設立の報告』

承認…43
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

議題②
『平成30年度
学園祭実行計画書に関する要請』

承認…42
否認…1
保留…0

↓賛成多数で可決

○議題について

第六回本会議の議題を受け、平成30年度学園祭実行計画書追加提出分に関する要請の採決と、新入生歓迎特別委員会設立の報告が行われた。2つの議題はいずれも賛成多数で可決された。学園祭実行委員会に関する特別委員会より提出された「学園祭実行委員会について」の改訂に関する要請の審議を行い、活発な議論が交わされた。



第七回本会議の様子

第四回意見聴取会

日時…10月24日(水) 18時30分
場所…5C216
出席…27人

議題
『平成30年度
学園祭実行計画書に関する要請』

○議題について

第七回本会議に引き続き、「学園祭実行委員会について」の改訂に関する要請の審議を行った。

この議題は、学園祭実行委員会にして毎年全代会が行っている審議の数を減らし、全代会・学園祭実行委員会双方の負担を軽減することを目的としている。具体的には「学園祭実行計画書の承認過程に関する提議」、「学園祭実行委員会委員長・副委員長任命に関する提議」およびこれらの提議に伴う「学園祭実行委員会について」の改訂案を扱った。



第四回意見聴取会の様子

■ 第八回本会議

日時…11月7日(水) 18時30分
 場所…5C216
 出席…33人

議題
 『学園祭実行委員会について』の
 改訂に関する要請』

○議題について

第七回本会議、第四回意見聴取会に引き続き『学園祭実行委員会について』の改訂に関する要請』について審議を行った。前回の意見聴取会を踏まえて実行計画書の承認過程に関する提議をまとめた形での提出になった。

この会議は出席人数が定足に満たなかったため流会となった。なお、議題に関してはこの会議で十分に議論が尽くされたとし、次回の本会議では審議時間を設けずに採決を行うことが議長から伝達された。



第八回本会議の様子

■ 第九回本会議

日時…11月14日(水) 18時30分
 場所…5C506
 出席…45人

議題①議案①
 『学園祭実行委員会について』の
 改訂案』

承認…42
 否認…0
 保留…0

↓全会一致で可決

議題①議案②
 『学園祭実行計画書の承認過程に
 関して』の提議』

承認…42
 否認…0
 保留…0

↓全会一致で可決



第九回本会議の様子

議題①議案③
 『学園祭実行委員会委員長・
 副委員長任命に関して』の提議』

承認…43
 否認…0
 保留…0

↓全会一致で可決

議題②
 『2019年度監察役選出に
 ついての報告』

○議題について

議題①に関しては、第八回本会議にて審議は尽くされたものとして、採決のみを行った。全ての議題・議案はいずれも全会一致で可決された。

議題②に関して、2019年度監察役として、相川さくら(情報メディア創成学類2年)と猪瀬百合子(生物学類2年)が立候補し、監察役として適切か審議を行った。

専 門委員募集中

委員会	活動日	活動内容
総務委員会 事務部門 / 情報部門	火	全代会の活動の補佐及び情報の管理を行う
学内行事委員会	木	全代会と学内の行事を運営する関係組織を繋ぐ
教育環境委員会	火	全学的な教育環境に関する問題について取り扱う
生活環境委員会	火	学生の生活に関する問題について取り扱う
調査委員会	火	全代会として取り組むべき問題の調査・報告をする
広報委員会 編集部 / 制作部	木	全代会の広報と学生に有益な情報を発信する



ご連絡はこちらまで zdk@stb.tsukuba.ac.jp

Campus

全代会の広報誌 Jan. 2019

No. 217
2019年1月8日発行

記事制作者より

今号から広報委員会に入り、初めて記事編集に取り組んだ。担当した学類特集で先生方からお話を伺い、また自分で調べることを通して、新たな気付きがあり大変勉強になった。指導下さった岡崎先輩に感謝しつつ、当委員会の担うべき役割を内部分から理解していきたい。

【四家武彦】

今回の記事執筆は雙峰祭時期と被り、忙しい中どうにか書き上げた。前号よりも読者にとってわかりやすい文章にしようと心掛けているもの、そう簡単にはいかないものだ。次号もめげずに取材と執筆頑張ろう。

【軽辺凌太】

表紙制作者より

広報委員会に入ってから約10カ月、初めて表紙デザイン案が採用された。元のデザインよりも素敵なものに仕上がりに、共同作業の良さを感じている。目に留まり思わず手に取りたい。そんなCampusを作りたい。

【鈴木瑠夏】

編集後記

引退号で自分の所属する学類の特集に取り組んだ。知識情報・図書館学類というよくわからない学類の素敵な部分が3年生になった今、1年生の頃の自分より見えるようになった気がする。

また、私が全代会に入った理由はいわゆる「なんとなく」だった。それでも2年半と少しの間この全代会で過ごすうちに、以前より全代会の素敵な部分も見えた気がした。良くない部分も、所属していてしんどいことも、ここにはたくさんある。それでも全代会構成員に全代会を好きになってもらえますように、そして全代会の活動が筑波大生にとって意義のあると思ってもらえるものになりますように、と私は切に願っています。

【岡崎那菜】

BACK NUMBER



Campus No.216 2018/10/02
特集：筑波山再考

共生社会の実現に向けて／全代会の2018年度
全代会活動報告



Campus No.215 2018/04/01
特集：「フォトジェニック」を探しに行こう

「資源」は「農業」だけじゃない／全代会概論
全代会活動報告



Campus No.214 2018/01/10
特集：夜空を見上げる冬のひととき

正しく叱ろう／日本と世界との架け橋
全代会と学生・大学のこれから／全代会活動報告



Campus No.213 2017/10/04
特集：みんなで「音」を楽しもう

世界の真理を見つめる物理学／全代会の2017年度
全代会活動報告

STAFF

編集人	岡崎那菜
発行人	十川澄
表紙デザイン案	鈴木瑠夏
編集委員	新真澄 岡崎那菜 軽辺凌太 北村夏海 四家武彦 瀬邊風馬 鈴木瑠夏 十川澄 竹内織洋 近森正太郎 西堀涼香 宮内順也

発行 全学学類・専門学群代表者会議
広報委員会



<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>
zdk@stb.tsukuba.ac.jp

バックナンバーは1学食堂内のボックスで配布しています。
ウェブ版『Campus』公開中 <https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>

広報委員会では随時専門委員を募集しています。興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。